

12 衛生研究所の移転について

1 はじめに

埼玉県衛生研究所（本所：さいたま市桜区、支所：深谷市）は、平成 26 年 4 月 1 日に、さいたま市桜区から比企郡吉見町に移転します。

2 移転の経緯

現在の衛生研究所は、昭和 47 年に竣工して以来、40 年に渡り埼玉県の衛生行政における科学的、技術的中核機関として、県民の疾病予防、健康の保持増進、公衆衛生の向上のため、試験検査、研修指導及び公衆衛生情報等の収集・解析・提供等を行い、その勤めを果たしてきました。

施設の老朽化及び検査設備の老朽化への対応が課題となっていた中で、同様の機能を有した、さいたま市健康科学センターや川越市保健所が設置され、そのあり方について合わせて検討してきました。

このような中、県有資産を有効活用する形での衛生研究所の移転について議論が重ねられ、耐震補強済みの旧吉見高等学校（比企郡吉見町）の利用が決定し、ついに平成 24 年 11 月から改修工事等が始められました。

3 移転による効果

(1) 細菌及びウイルスの遺伝子検査の強化

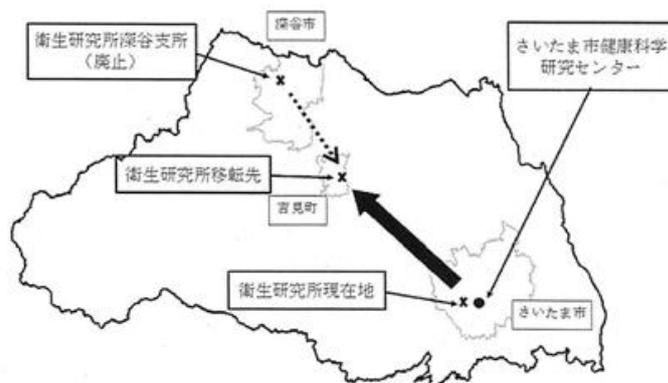
感染症や食中毒を引き起こす細菌やウイルスの遺伝子検査を行うための機器を整備し、早期に感染源を特定することで、地域での感染拡大の防止、流通食品による被害拡大防止を図ります。

(2) 微量化学分析検査の強化

微量化学分析検査機器を整備し、検査精度を向上させることで、脱法ハーブのような違法ドラッグに含まれる違法な薬物やいわゆる健康食品に含まれる医薬品成分等による事故発生防止を図ります。また、食品中の残留農薬検査や飲料水中の化学物質検査の迅速化により被害拡大防止に対応します。

(3) 深谷支所の統合

埼玉県の中央に移転することで、南部と北部に分かれていた衛生研究所を一か所に統合し、人材と検査機器の効果的な運用を図ります。



埼玉県衛生研究所（移転先）
埼玉県比企郡吉見町江和井 410-1



新衛生研究所イメージ

4 衛生研究所の機能強化

移転に伴い、衛生研究所の機能強化をすべく、様々な検討を重ねています。その一部を御紹介します。

(1) 検査精度・迅速性の向上

最新の検査機器等を導入し、検査精度・迅速性等を向上させ、食中毒や有害物質等による被害拡大をより一層防止します。また、これらの機器を利用した調査研究を進め、検査業務の更なる改善を行います。

(2) 感染症情報センターの機能強化

所内に設置されている感染症情報センターについて、県民目線での情報提供を充実するとともに他の組織・機関との連携を強化し、情報収集・発信機能の向上を図ります。

(3) 精度管理体制の充実

試験・検査のより一層の信頼性を確保するため、所内規程・手順の総合的な見直しを行うとともに、国際標準を見据えた業務管理を推進します。

(4) 産官学連携の推進

県内の大学・研究機関・企業・団体等との連携を図り、共同研究を行うとともに、県民への情報提供等に努めます。

5 機能強化備品の導入

衛生研究所の機能強化の一環として、次の検査機器等を導入します。今後、これらの備品を活用し、県民の安全・安心のために調査研究を進めていきます。

- (1) リアルタイム濁度測定装置
- (2) DNAシーケンサー
- (3) 誘導結合プラズマ質量分析装置
- (4) 高速液体クロマトグラフ質量分析装置
- (5) ガスクロマトグラフ・四重極質量分析計
- (6) 蛍光ガラス線量計測定装置
- (7) マイクロチップ電気泳動装置
- (8) 自動核酸精製装置
- (9) 液体クロマトグラフ高分解能質量分析計

6 現衛生研究所の庁舎について

現在の衛生研究所(さいたま市桜区)は、今回の移転後、その 42 年に渡る役割を終えます。その最後の雄姿と、これまで所を支えてきた職員を代表して、歴代の所長をここに掲げさせていただきます。



昭和 28 年～昭和 39 年	分島 整
昭和 40 年～昭和 54 年	早野 正己
昭和 55 年～昭和 59 年	岡田正次郎
昭和 60 年	河内 卓
昭和 61 年～平成 3 年	方波見重兵衛
平成 4 年～平成 7 年	大村外志隆
平成 8 年～平成 9 年	羽賀 道信
平成 10 年～平成 12 年	小林 進
平成 13 年～平成 17 年	丹野瑛喜子
平成 18 年	大村外志隆
平成 19 年	野本 親男
平成 20 年	新井 博
平成 21 年～平成 22 年	伊能 睿
平成 23 年	丹野瑛喜子
平成 24 年～	大村外志隆

(敬称略)